

# アトサヌプリ (硫黄山)



阿寒摩周国立公園

## 摩周・屈斜路・アトサヌプリカルデラの成り立ち

～はじめは海～  
約2000万年前から1000万年前、阿寒・知床附近一帯は海でした。海底火山が盛んに活動し、火山からの噴出物や泥、砂などが厚く海底にたまりました。この後、200～300万年前からゆっくりと隆起し、一部が海面に現れました。



およそ7千年前には屈斜路カルデラの東側で摩周火山が噴火し、新たに摩周カルデラを形成。長い年月を経て水がたまり、摩周湖となりました。



今からおよそ40万年前、この地域にはいくつかの火山が連なっていたと考えられています。そして約3万年前にかけて、この地域で大噴火が繰り返されました。その噴火に伴う火砕流は、道東全域を埋め尽くすほどの巨大なものでした。



古アトサヌプリの周囲にサワンチサップ（現在のかぶと山）と新期アトサヌプリ（現在の硫黄山）を形成し、今の姿がほぼ完成しました。



マグマを噴出した場所の地下に空洞ができたため、地面が落ち込み、巨大な屈斜路カルデラが誕生しました。このくぼ地に水が溜まり、屈斜路湖の原型ができました。



この地域の最後の大きな噴火は約1千年前の摩周岳の噴火でした。今でも爆裂火口が残っています。



屈斜路カルデラ形成後も活発な火山活動が続き、摩周火山や古アトサヌプリ火山など、新たな火山がいくつも生まれました。



数百年前にはアトサヌプリ（硫黄山）の山頂付近で水蒸気爆発が起き、「熊落とし」と呼ばれる火口跡が残っています。



- ⑤ オプタデシュケ  
標高 504.1m | Ⅰ期 二重構造  
地名：オプ（槍）タ（そこで）デシケ（それる）〈コタンの裏山で、昔藻琴山と槍投げをして争ったとき槍がそれたという伝説あり〉
- ⑥ リシリ  
標高 397m | Ⅱ期 単一構造  
扁平な円頂丘で、溶岩は北方で湯沼をせき止め、南方へ2.5kmも流れ、美留和原野に達する。
- ⑦ サワンチサップ  
標高 520m | Ⅱ期 二重構造  
地名：サ（前方）ワ（に）アン（ある）チサップ（？）  
別名：帽子山 | 山の中腹にスキー場の跡あり。
- ⑧ マクワンチサップ  
標高 574.3m | Ⅱ期 二重構造  
地名：マク（後方）ワ（ある）チサップ（？）  
別名：かぶと山
- ⑨ アトサヌプリ  
標高 512m | Ⅱ期 二重構造  
地名：アトサ（裸）ヌプリ（山）〈硫黄山〉  
円頂丘群の中で一番新しく、噴気孔は1500以上あり、現在も絶えず活動をしている。
- ⑩ 274m 山

### アトサヌプリ溶岩円頂丘群

アトサヌプリ火山群は屈斜路カルデラの中央部に、円形であった屈斜路湖の東半部を埋めた形で、ドーム状をした計10個の溶岩円頂丘からなります。これらの円頂丘群は約7千年前の摩周火山の火砕流堆積物を鍵層として、新旧2期に大別されます。古いⅠ期の6山は新しいⅡ期の4山を取り巻くように位置しています。また、ほとんどの山にアイヌ語にちなんだ名前がついています。

- ① 丸山  
標高 225m | Ⅰ期 単一構造  
釧路川源流部付近にある丸いドーム型の円頂丘。
- ② ヌプリオンド  
標高 231.5m | Ⅰ期 単一構造  
地名：ヌプリ（山）オホンド（尻）
- ③ ニフシオヤコツ  
標高 195.8m | Ⅰ期 単一構造  
地名：ニ（木）プシ（はねる）オヤコチ（くびれたところ）
- ④ トサモシベ  
標高 370.3m | Ⅰ期 単一構造  
地名：トウ（湖）サム（傍）ウシユ（～にある）ペ（もの）〈湖の傍にたっているもの（池の湯の裏山）〉

### 川湯エコミュージアムセンター



#### 開館時間

4月～10月 8:00～17:00  
11月～3月 9:00～16:00

#### 休館日

毎週水曜日（7月第3週～8月31日は無休、水曜祝日の際は翌日）  
年末年始（12月29日～1月3日）  
入館料 無料

088-3465

北海道川上郡弟子屈町川湯温泉2-2-6

TEL 015-483-4100

FAX 015-483-4111

URL <http://www.kawayu-eco-museum.com/>